一般外来

【一般目標（GIO)】

症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て解決に導く能力を身につける

【行動目標（SBO s)】

① 適切な医療面接による病歴聴取、系統的身体診察、基本的治療の選択・オーダができるようになる
② 患者・家族と良好なコミニュケーションを築き、病状・治療方針について適切に説明できるようになる
③ 上級医・他科医師、看護師棟へ適切なタイミングでコンサルトできる
④ 高血圧・脂質異常症・糖尿病などの慢性疾患の基本的管理、食事・運動などの生活指導ができるようになる

【研修方略（LS)】

① 指導医の下、午後の内科外来で実務を行う。期間は全研修期間を通して行うこととする
② 経験した症例に関して、問診・診察・検査・治療について適切であったか指導医とディスカッションを行う
③ 必要時には他科へのコンサルテーション、専門外来への紹介、栄養指導などのオーダを行う
④ 診断書・証明書などの書類を作成する

【研修評価（Ev)】

① 自己評価：各年次終了時に評価表による評価
② 指導医による評価：各科研修修了時に評価表による評価

【代表的経験疾患】

① 入院時担当医となった患者の再診
② 初診患者
③ 慢性疾患（高血圧・脂質異常症・糖尿病など）

【一般外来研修の方法】

1）準備

・外来研修について、指導医が看護師や事務職など関係スタッフに説明しておく。
・研修医が外来診療を担当することがある旨を病院の適切な場所に掲示する。
・外来診察室の近くに文献検索などが可能な場があることが望ましい。

2）導入（初回）

・病棟診療と外来診療の違いについて研修医に説明する。
・受付、呼び入れ、診察用具、検査、処置、処方、予約、会計などの手順を説明する。

3）見学

（初回～数回：初診患者および慢性疾患の再来通院患者）
・研修医は指導医の外来を見学する。
・呼び入れ、診療録作成補助、各種オーダー作成補助などを研修医が担当する。

4）初診患者の医療面接と身体診察

（患者 1～2 人／半日）
・指導医やスタッフが適切な患者を選択（頻度の高い症候、軽症、緊急性が低いなど）する。
・予診票などの情報をもとに、診療上の留意点（把握すべき情報、診療にかける時間の目安など）を指導医と研修医で確認する。
・指導医が研修医を患者に紹介し、研修医が診療の一部を担当することについて承諾を得る。
・時間を決めて（10～30 分間）研修医が医療面接と身体診察を行う。
・医療面接と身体診察終了後に、研修医は得られた情報を指導医に報告（プレゼンテーション）し、指導医は報告に基づき指導する。
・指導医が診療を交代し、研修医は見学や診療補助を行う。

5）初診患者の全診療過程

（患者 1～2 人／半日）
・上記4）の医療面接と身体診察の終了後、その後に行う検査、治療、患者への説明、関連する医療行為、他科へのコンサルテーションなどについて指導医から指導を受ける。
・指導医の監督下に、検査や治療のオーダー、患者への説明、関連する医療行為、他科へのコンサルテーション依頼などを行う。
・前記の診療行為のうち、結果が当日判明するものについては、その結果を患者に説明する。

・必要な処方薬を指導医の指導のもとに処方する。
・次回の外来受診日を決め、それまでの注意事項などについて指導する。

6）慢性疾患を有する再来通院患者の全診療過程
（上記4）、5）と並行して患者 1～2 人／半日）

※一般外来研修では、研修医にどのレベルまでの診療を許容するのかについては、指導医が一人ひとりの研修医の能力を見極めて個別に判断する必要がある。
※どのような能力レベルの研修医であっても、診療終了後には必ず共に振り返りを行い、指導内容を診療録に記載する。